東京学芸大学　文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2022
情報交流会 2022年 6月19日
認定特定非営利活動法人 多文化共生教育ネットワークかながわ 資料

高校生への
日本語指導(支援)について考える
ー神奈川県教育委員会・高校・ NPOの協働による取り組みからー

武一美(認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ)
志村ゆかり(一橋大学)

教室実践の背景と枠組み

教室実践の目的

横浜北東・川崎地域の県立高等学校生徒また入学予定者に対して、地域人材を活用し、外国につながりのある生徒への日本語指導を中心とした、入学から卒業までのトータルな支援を行うこと

（神奈川県教育委員会からの委託でNPOが実施）

教室実践の場の背景

・2007年～県立高校への多文化教育コーディネーター派遣事業等実施

・認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ（以下ME-net）
　と神奈川県教育委員会（以下県教委）の協働

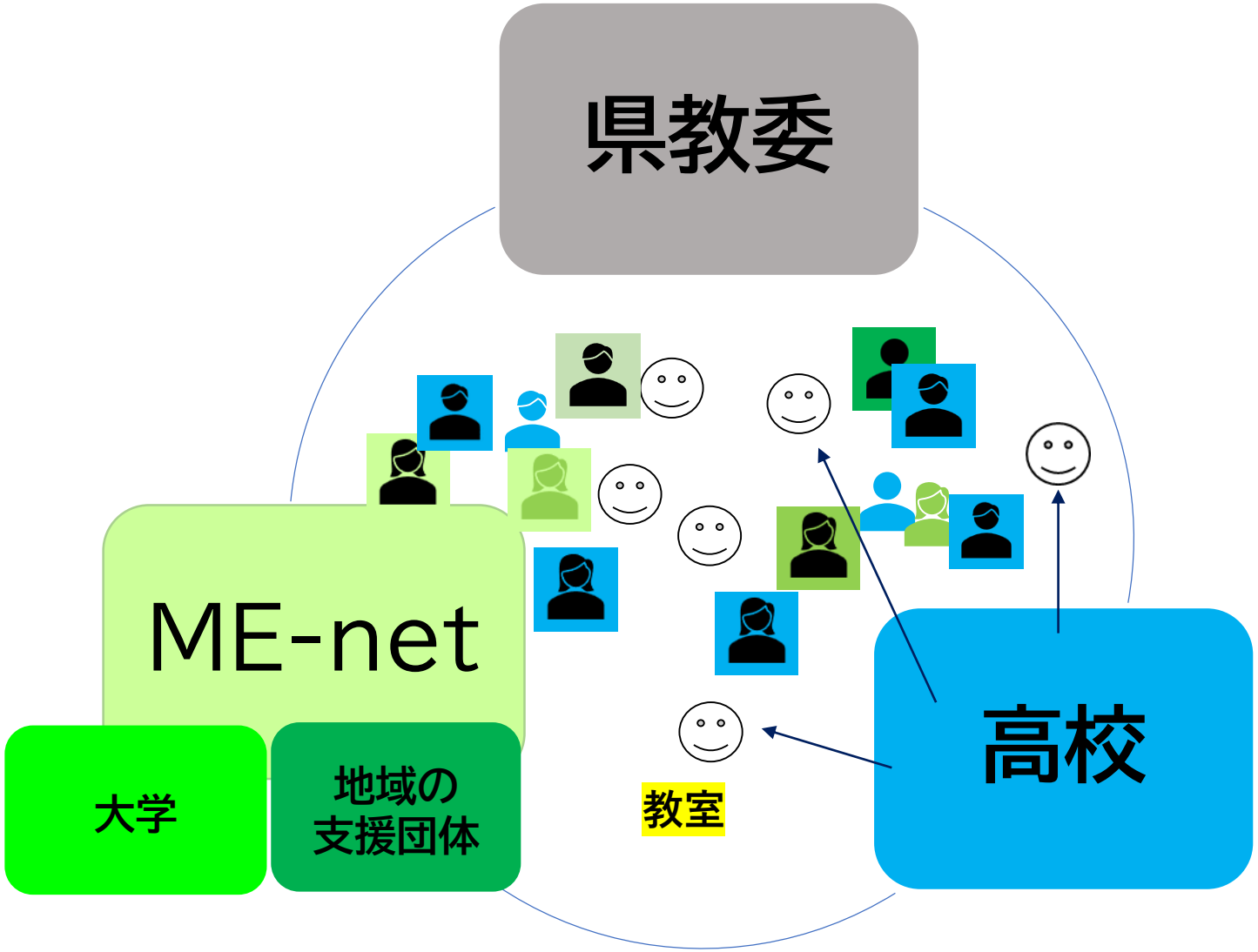
高校生の中退防止・キャリア支援・様々な課題

地域を巻き込んだ高校生への支援の場の必要性

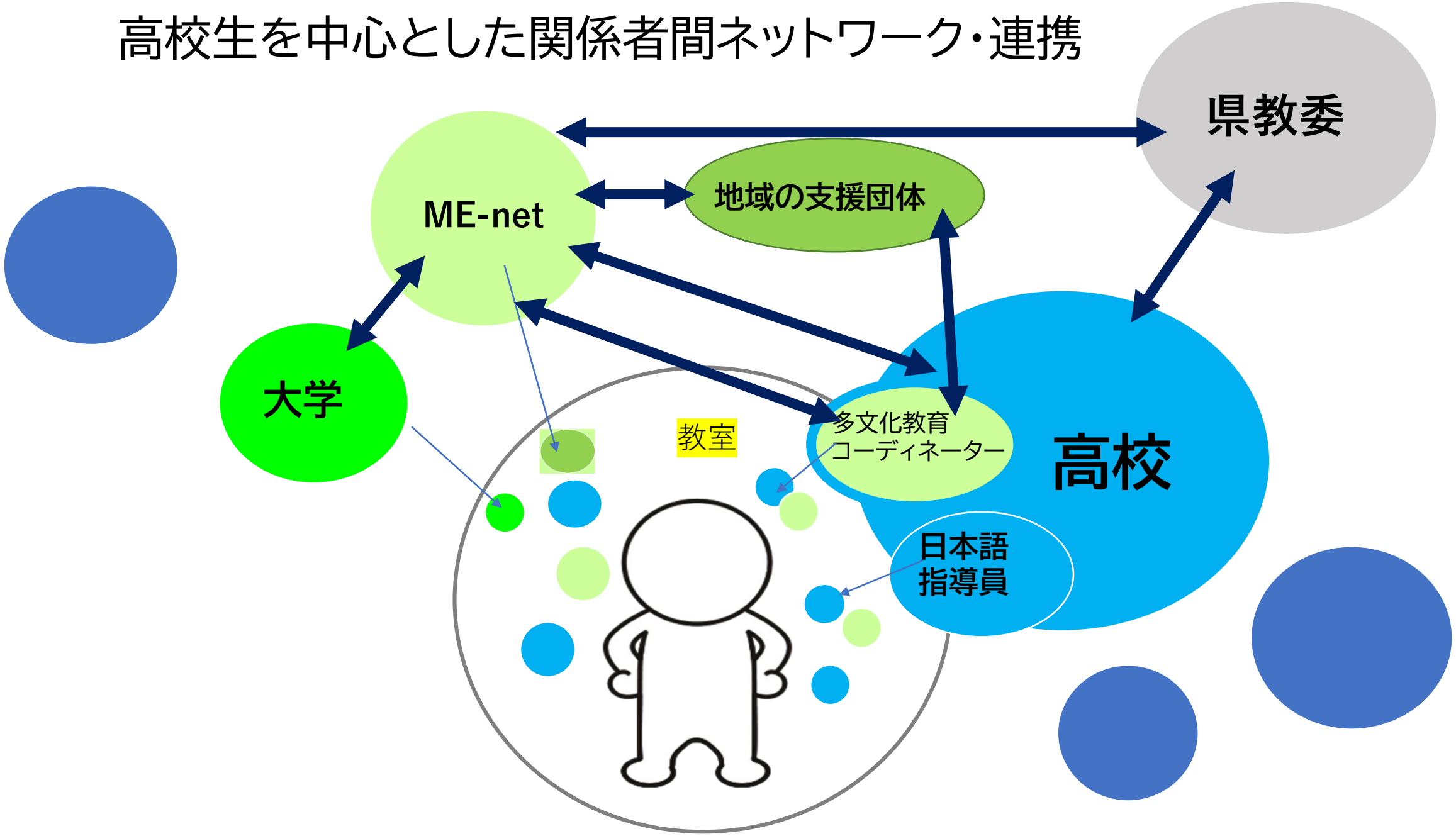
教室実践の枠組み

- 形態：日本語学習支援教室
- 神奈川県教育委員会高校教育課（以下県教委）の委託を受けてME-netが運営・実施。
- 対象：横浜北東・川崎地域の県立高等学校（31校）の生徒、プレスクールは入学予定者
- 実施場所：神奈川県立川崎高等学校、状況に応じてzoom開催
- 実施期間・時間：※生徒は午前か午後を選択
  ①土曜教室：通年、週1回土曜日・休業中、午前・午後、各2時間
  ②プレスクール：入学予定生徒に対して3月に10日間午前・午後
- 外国につながりのある生徒への日本語指導を中心とした入学から卒業までのトー タルな支援
- 教育委員会・高校・ ME-net（＋地域の支援グループ・大学）が連携して実施する。
- 日本語指導は、日本語スタッフ（日本語教育の専門性有）5名が主に担当する。
- 拠点校4校に日本語指導員を県教委が雇用し、日本語指導員は高校内での日本語支援と本実践の場での支援をつなぐ役割を担う。

組織間ネットワークのイメージ図



高校生を中心とした関係者間ネットワーク・連携



教室における人的配置

	日本語指導	教科・キャリア支援	母語支援	イベント	高校連携
中心スタッフ	日本語リーダー 日本語スタッフ ※日本語教育従事者、有資格専門家	教科リーダー 大学生ボランティア	母語支援スタッフ	大学生ボランティア	拠点校(4校)の 日本語指導員
	日本語指導 学習アドバイス 生徒の状況把握 補助スタッフへのアドバイス	教科指導 学習アドバイス 進路アドバイス 小論指導 面接練習	生徒の言語に対応する。	交流イベントの企画・実施	生徒を教室につなぐ 生徒の状況把握 相談やサポート ※日本語指導員は隔週で教室に参加
補助スタッフ	大学生ボランティア 日本語指導員 母語支援スタッフ	日本語指導員 日本語スタッフ 母語支援スタッフ	大学生ボランティア	日本語スタッフ 母語支援スタッフ 日本語指導員	多文化教育 コーディネーター
	学習サポート、 答え合わせ、 会話の読み合わせ、 話し合い				

高校3年間　　卒業後

これまでの　　いまの

2年間の実践、3年目の実践

2年間の実践・3年目の実践

※各回の参加生徒数は10～20人程度

年度	実施形態	使用教材	指導形態と基本的な考え方（1年生）	その他の支援・働きかけ
2020	土曜教室	中学生の日本語	個別（＋グループ、全体）作文重視	教科学習、オンライン教室リテラシー、イベント
	プレスクール	プリント・ワークシート	個別＋グループ・全体交流	教科授業の体験 イベント
2021	土曜教室	中学生の日本語	個別（＋グループ、全体）作文重視	教科学習、イベント 3年生に小論指導 学習のための個別面談
	プレスクール	中学生の日本語	グループ 土曜教室につなぐ	教科授業の体験 イベント
2022	土曜教室	中学生の日本語 読解教材、ライティング教材、ワークシート	【個別】＋【グループ】 作文重視 グループビルディングゲーム、多読	イベント 3年生への小論指導 学習のための個別面談 2、3年生への個別課題
	プレスクール	未実施	未実施	未実施

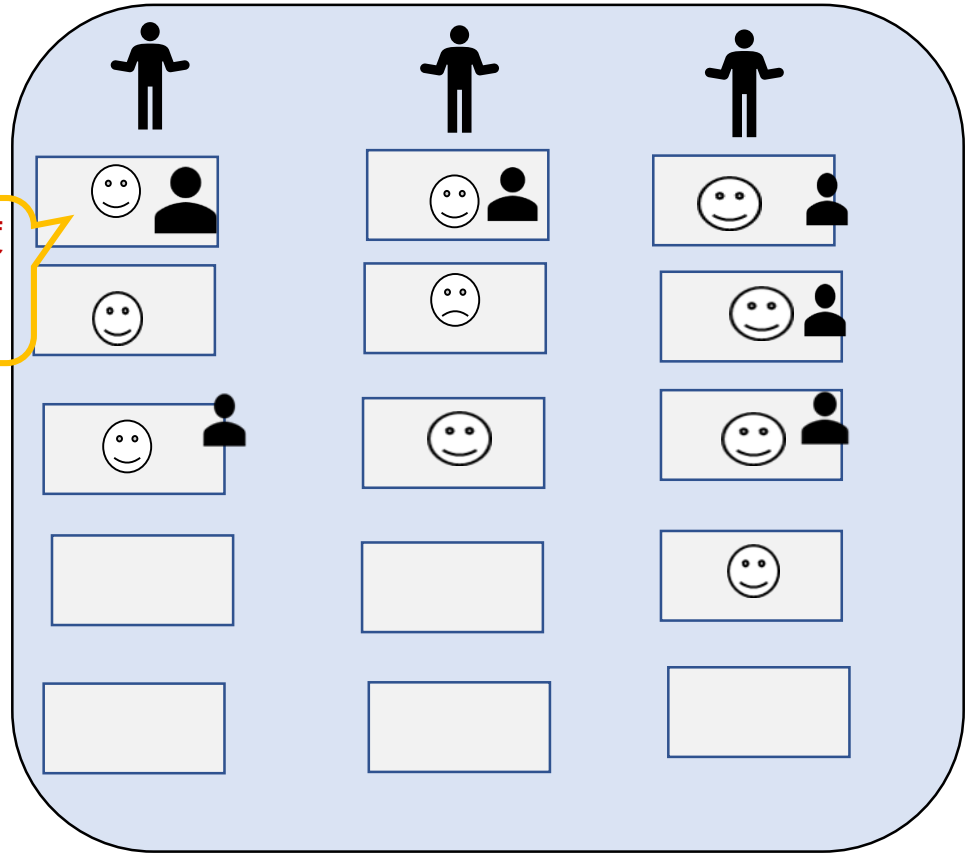
2021年度、2022年度は、JLPT受験日1か月前に4回別途JLPT対策教室を平常の土曜教室に併設

現在の日本語教室　スタッフ配置イメージ図

高校生、 日本語スタッフ、大学生ボランティア　 高校の日本語指導員

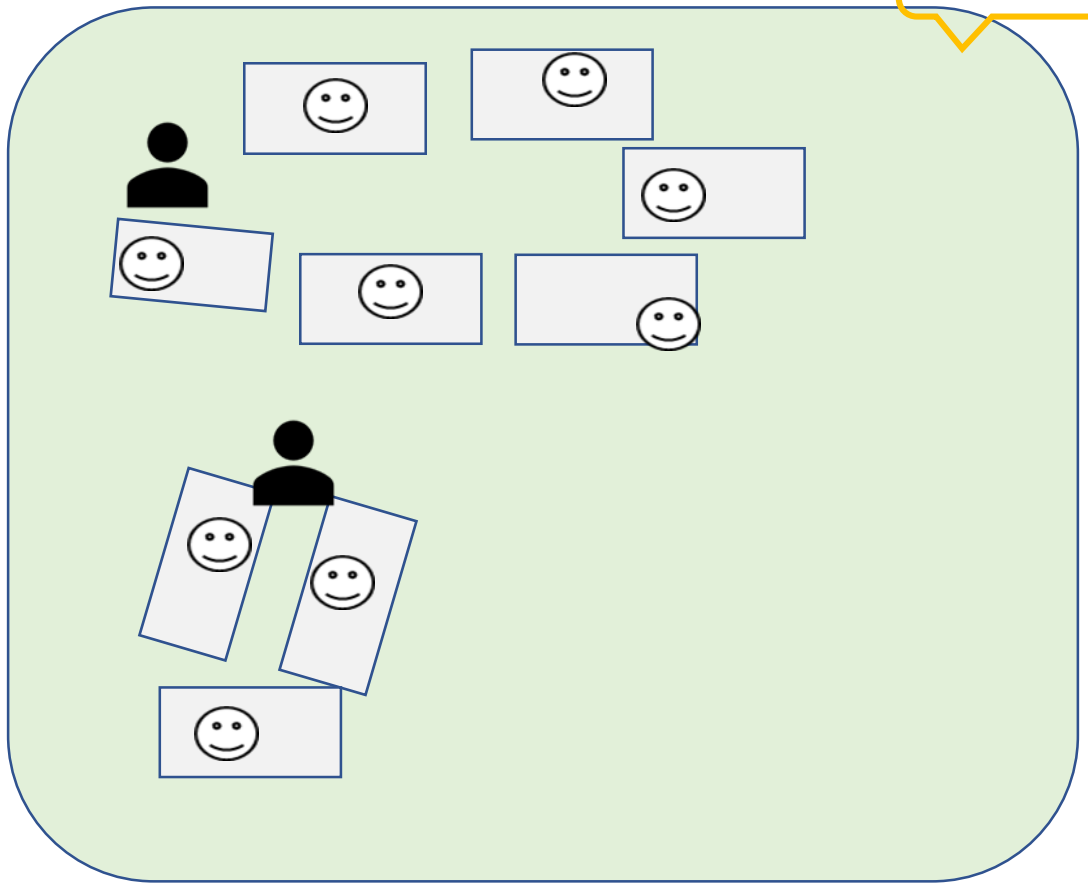
縦列はレベル別
担当者別グループ

個別の進度
各自のペースで学習



1時間目

活動



2時間目

情報共有・相談・報告 《スタッフ間》《教室と高校》《教室と教育委員会》

●毎回の授業後に、スタッフ全員で振り返り・共有する。
●学習の記録：日本語スタッフ・教科リーダーが担当生徒の学習の進捗と生徒の様子をシートに毎回記録する。
●生徒出欠と生徒全体の様子を、月1回高校の窓口の教員、日本語指導員に報告する。
●4校生徒の様子を各校の日本語指導員が把握、高校担任等との連携。
●生徒に何か心配なこと対応の必要なことがあれば、日本語リーダー、教科リーダー、日本語スタッフ、日本語指導員で相談、生徒と相談する。都度対応。（必要であれば高校へ）
●毎月県教委に報告書：登録者、出席生徒の各回個別学習進度と様子。

2年を経過して3年目に入った現在の教室

●各スタッフ間の連携が熟し、各自の役割分担が緩やかに確立した。
柔軟に役割を変更することも可能になった。

●高校からの要望により、進学する３年生への小論文指導を行うようになり、大学生中心で実施。

●高校からの強い要望でスタートしたJLPT指導を日本語学習意欲の促進やキャリア支援と関連付ける。

●教科書での学習に加えて活動の時間を設けた。（日本語＋生徒間交流）

●日本語基礎固め期間の1年生から個別の課題に対応する2年生3年生への日本語指導への道筋が整う。

JLPT（日本語能力試験）：日本語を母語としない人たちの日本語能力を測定し認定する試験
（国際交流基金・日本国際教育支援協会主催）
https://www.jlpt.jp/about/index.html

2年間の振り返りと3年目の実践の課題

●継続して作文重視を念頭に置いて実施してきたが、継続的に書く力（考える力）を育成する体制はできてはいない。

●なぜか？⇒複数スタッフで連携することの功罪

○多様な人が関わる環境作り

×多様なスタッフの関わりを重視したため、日本語スタッフが生徒を十分見る時間が取れず、生徒の考えを引き出し表現するためのサポートができなかった。

●3年間でどのような日本語を力をつけるのか、目標値は個別。

●自分の考えを表出するため力は、どの生徒にも必要。

●表現できる（したいと思う）環境、表現したい内容を表現するための形式や語彙を獲得しようとする自律的な姿勢が重要。

日本語を学ぶとは何か

「ことばの学び」に影響すること、関わること

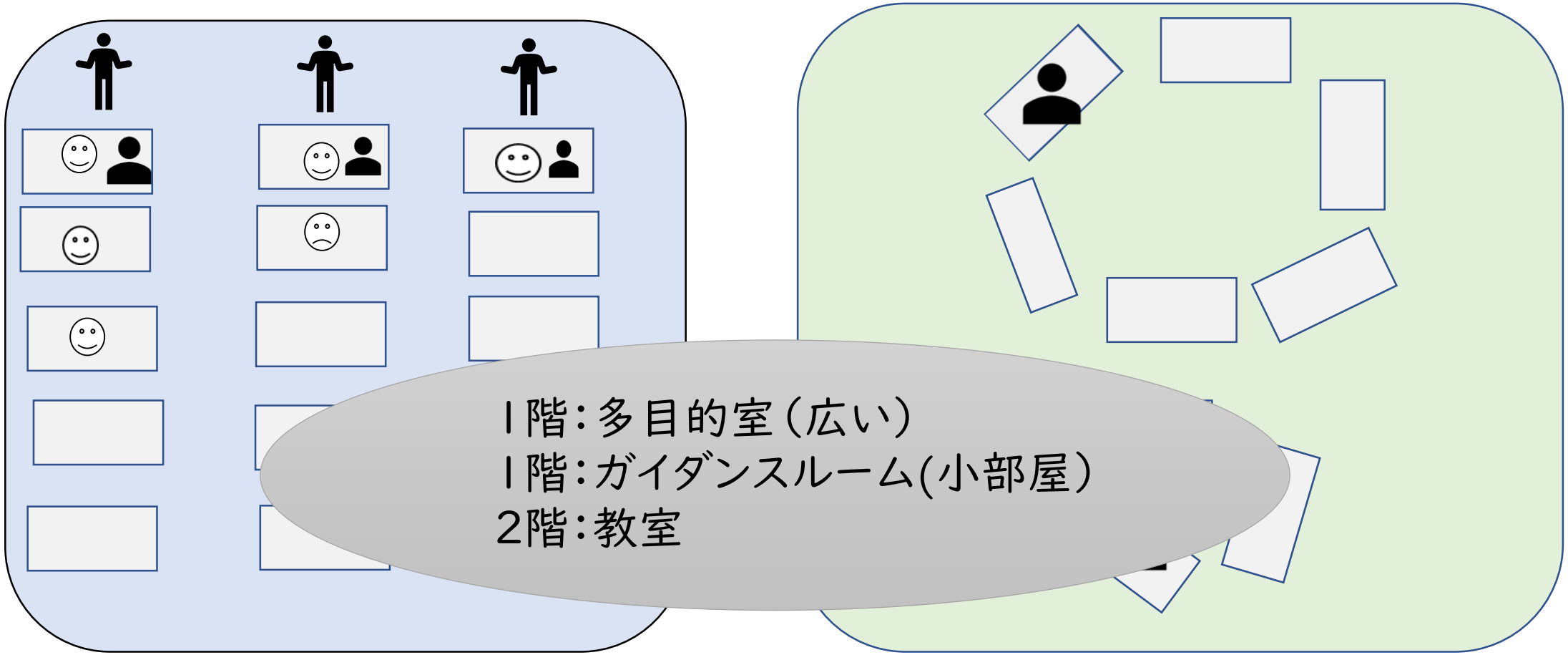
→ 心

人生におけるメリット
交流（人、社会）
知識を得る
成長　　etc.

全人的

個とつながり（絆）

個とつながり（絆）ー空間ー



机の配置

個とつながり（絆）ー人ー

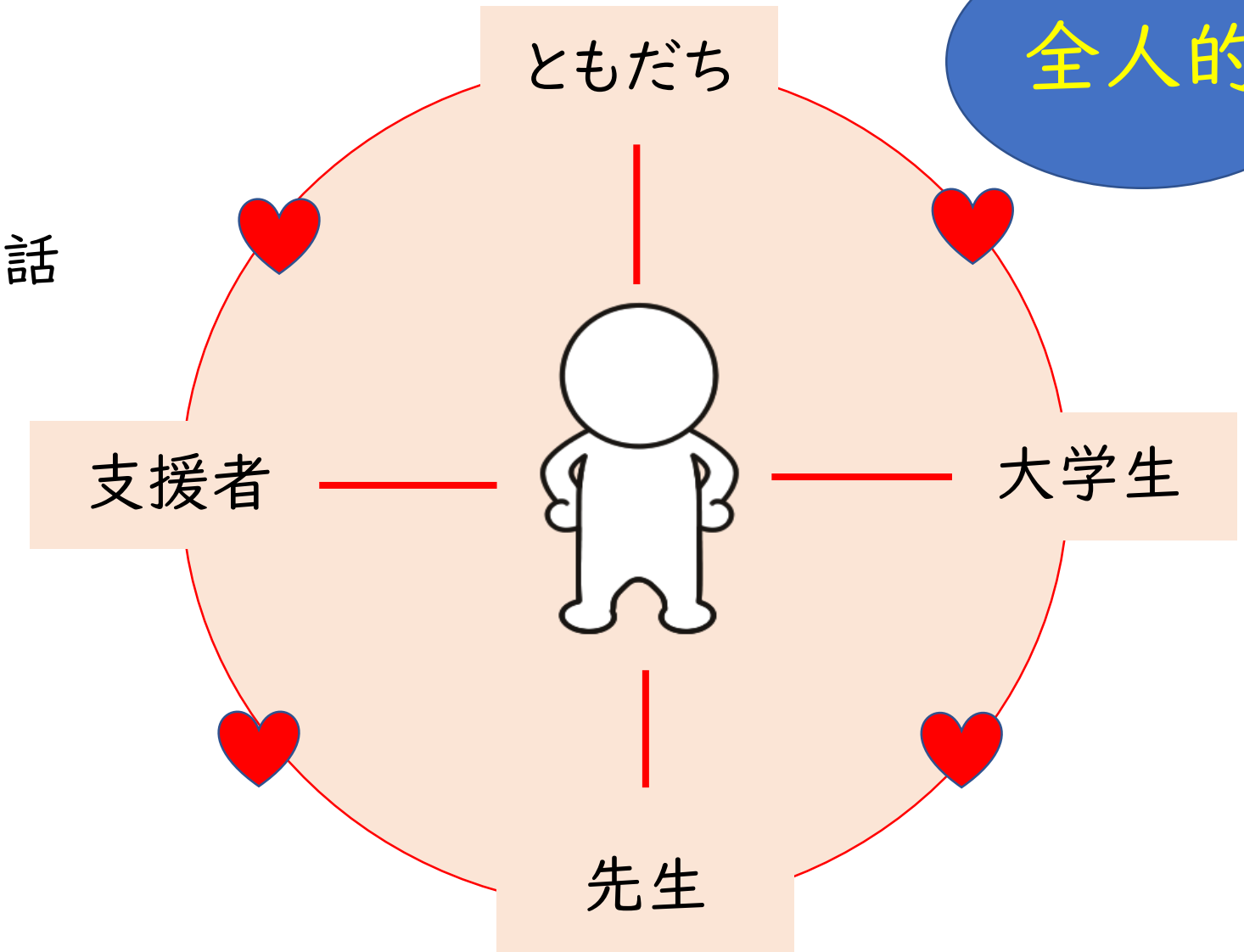
・日本語スタッフ
・日本語指導員
・大学生
・先輩
・母語支援者

報告・対話

↓

マッチング

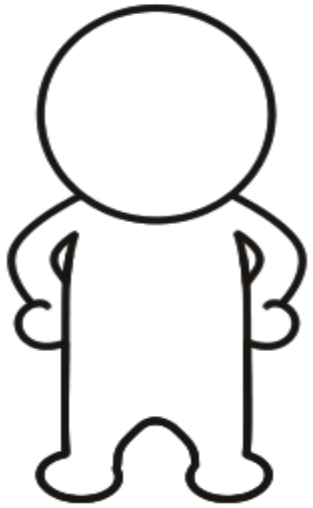
各生徒の学習ケア



全人的

個とつながり（絆）

作文から見た個への対応

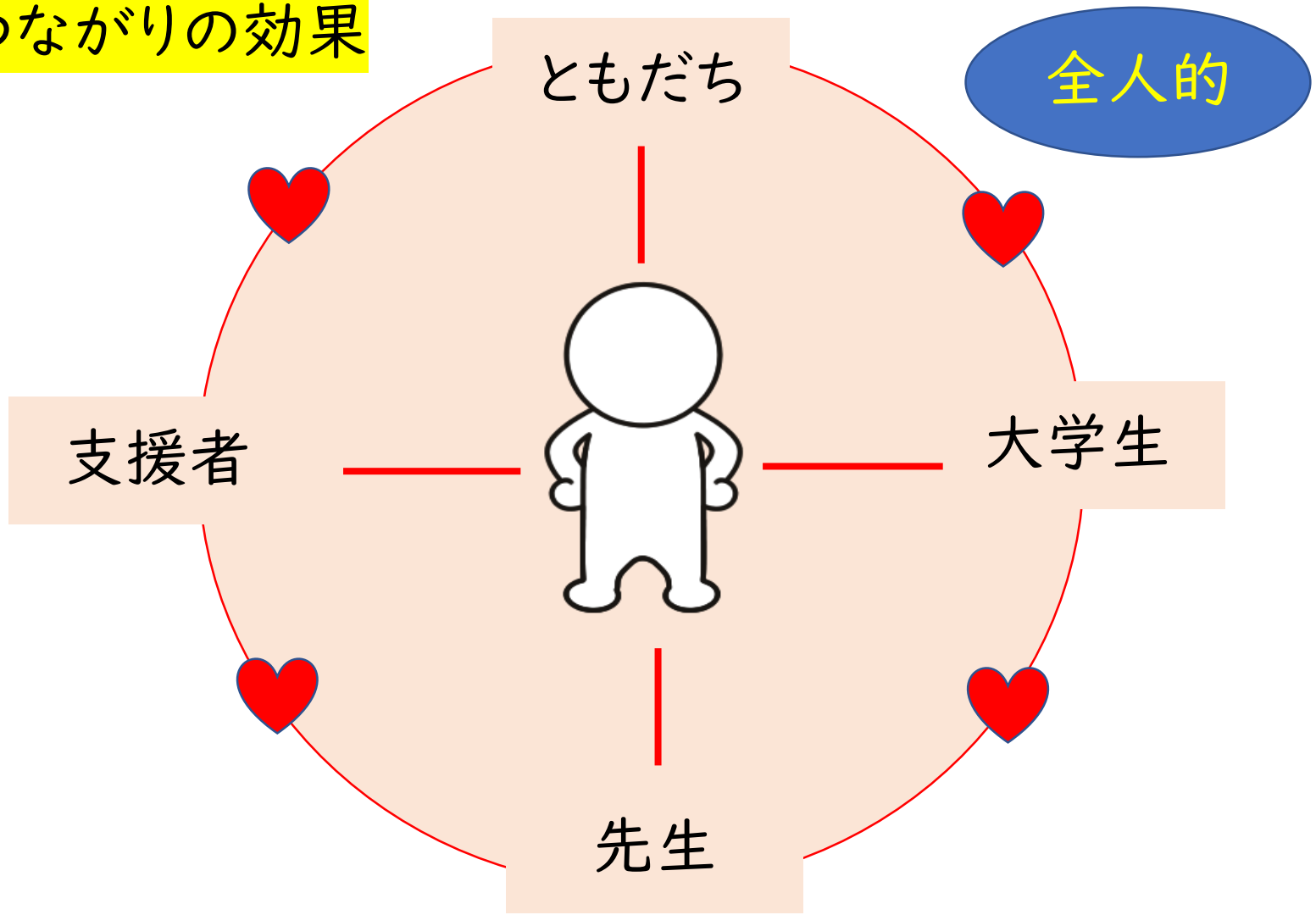


全人的

生徒名	意見・意見文の課題	原因	対応
A	意見を持つ意欲がない	【性格】 考えるのが面倒くさい	バイトしたい。 そこから、お店での昇進に絡めて意見が大切と話す
B	意見は持てても文章に組み立てられない。 英語ならまだ書けると話す。	【アイデンティティ】 英語への自負があり、将来は日本に住むかアメリカに渡るか揺れている。ルーツは第三国。	英語で作文してもらって、それを大学生と英語で議論。 その後、自然な流れで関連テーマを日本語でやりとりしていた。
C	構成はしっかりし、意見もはっきりしているが、背景となる知識が乏しく日本語で読むのは難しい。１文や１段落内の日本語に難あり。	【学習習慣】 初級からの癖として作文を書くときに母語を訳すことが多かった。	大学受験およびその後の大学生活を鑑みて、意見・意見文を強化することを生徒と確認。1文から組み立てていく力をつけるためにライティングの教材を使い始めた。一方で多角的に情報を集めるために母語で情報収集をし、それを日本語で伝えられるようにしたい。
D	日本語の力はあり、勉強も熱心。習得も速い。一方で意見文や意見を述べることに関しては、意見と根拠が個人的な視野にとどまる。	【教育的背景】 あまり批判的に、また深く物事を考えることをしていない様子。真面目で将来は大学に行きたいといい、自立している。	意見と理由が個人的範疇で言えてしまうので、学習した機能語を使って書いてもらったところ、視野が広がり俯瞰する視点が育った。

個とつながり（絆）

作文から見たつながりの効果



全人的

個とつながり（絆）

作文から見たつながりの効果ー作文をみんなでシェアするー

・多読→ストーリーの要約→ブックトーク

・『中学生のにほんご』（社会生活編）「ことわざ」の作文→ことわざ紹介

・『中学生のにほんご』（社会生活編）「健康」についてのアンケート→調査結果の作文→報告

・4コマ漫画からストーリー作成をペア活動

認め合う
認められる

『中学生のにほご（学校生活編）／（社会生活編）』，志村ゆかり編著，スリーエーネットワーク

個とつながり（絆）

なぜ作文か

全人的

リテラシーの必要性

・アカデミックな世界への道

・社会参加への道

・自己表現、自己成長への道 ／ 他者理解への道

個とつながり（絆）

『中学生のにほんご』学校生活編・社会生活編

ステップ1	全18課		
課	作文のタイトル	書きにくい場合	自由度
1はじめまして	自己紹介		なりきりOK
2学校とその周辺	私／ぼくの町		出身地OK
9外出	私／ぼくのクラスメート	私／ぼくの友だち	
15職場体験	職場体験	○○さんの職場体験	
18卒業式	「ありがとう」を言いたい人		
ステップ2	全16課		
課	タイトル	書きにくい場合	自由度
2ことわざ知っている？	あなたの国のことわざ	日本もOK	
4健康	健康のためにしていること	アンケート調査	
8スピーチをしよう！	スピーチメモ		内容自由
9役割分担	男女の役割分担表を見て思うこと		
11手話の世界	文化、習慣の違い		個人OK
16日本語の多様性	あなたの国の文字について	同じ出身国の生徒同士協働 母語支援者にサポート依頼	

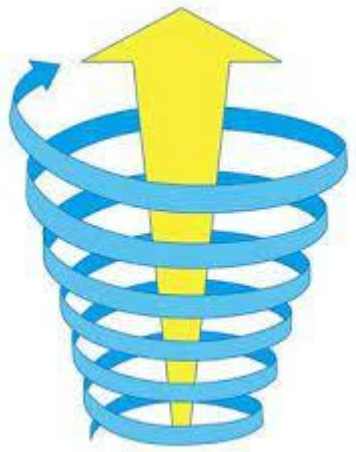
個とつながり（絆）

全人的

なぜ教科書を使うか、教科書に戻るか

軸としての存在　（活動を広げつつ／支援者・生徒のリクエストに応えつつ）

基礎的な日本語力育成→「言い換え」の価値

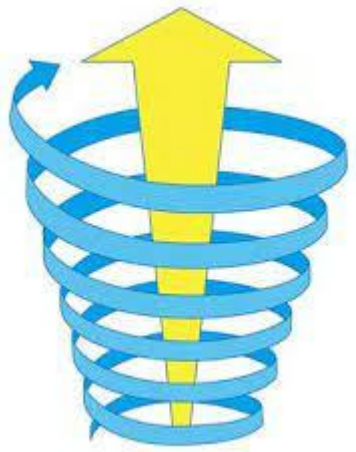


個とつながり（絆）

全人的

教科書のその後―上級生と卒業生への対応

☞必要に応じて教科書に戻る



全て生徒（元生徒）と相談しながら実施		
名前	一般	JLPT
2年生	ステップ2を継続	N2読解「総まとめ」 →情報をどうとるかが苦手。性格的にざっくりしていて、集中できずにすぐ脱線する。また、ポイントを示しても次になかなかそれを生かせない。まずは集中力育成が大切。
3年生	楽しい読み物55 →ステップ2をさらっと終わらせてしまったため、長い文章を読んだり書いたりする必要と語彙を増やす必要がある。この本はタスク型なので、情報を正しく取りながら実生活に生かせる。	N3の文法「総まとめ」使用 →まず基礎的な力の補強が必要
3年生	漢字たまご →語彙が少なく、漢字語が不得意とのこと。この本は実生活に沿って語彙も増やせる	N3の文法「総まとめ」使用 →まず基礎的な力の補強が必要
3年生	小論文対策：「留学生試験　小論文」使用：大学生が対応。モデル文を書き写すことで構成と意見の観点を体得するということ。	N1：対策コースとして、日本語スタッフ対応
ボランティアとして参加している卒業生	「時代を読み解く上級読解」「日本語ライティング」を日本語指導員と進めてくれている。 　教科や大学の課題も適宜対応。	N2受験だが、対策講座のみ（継続的に挑戦中）
ボランティアとして参加している卒業生	大学の授業についていくのが難しいので、課題を大学生にサポートしてもらって仕上げている。 →自立できるように支援する必要あり	

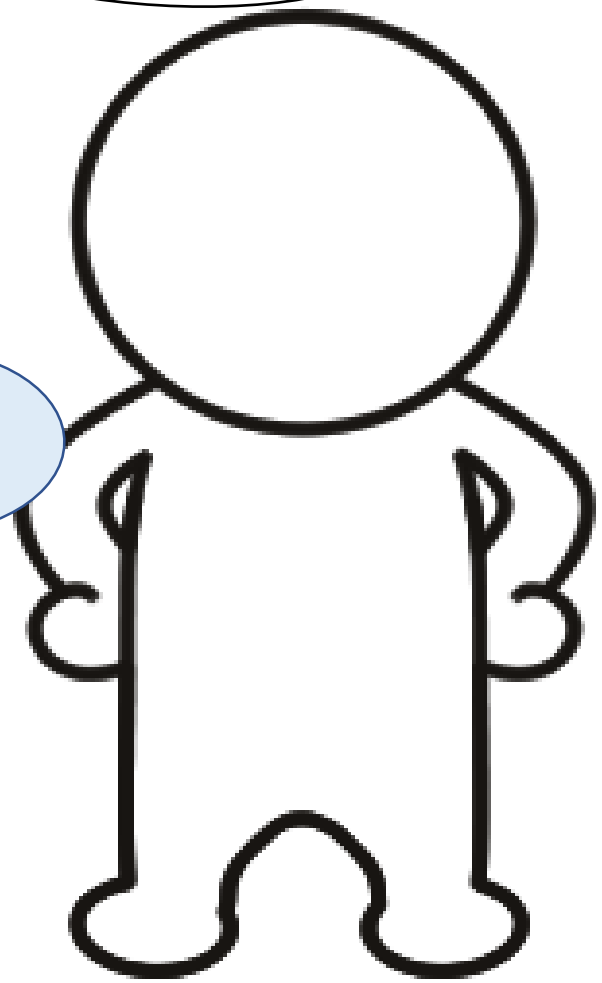
高校時代：自身のなかで　結ばれる日本語の学び

『教科書で学ぶ』
自己管理
自律学習
コミュニケーション

『グループ活動』
グループ作り
コミュニケーション
協働・学習方法の共有・読書

ゆっくり

日本語に注目する



教科学習

多様な人と出会う

体験する・知る・考える

高校時代：自身のなかで　結ばれる多様な学び

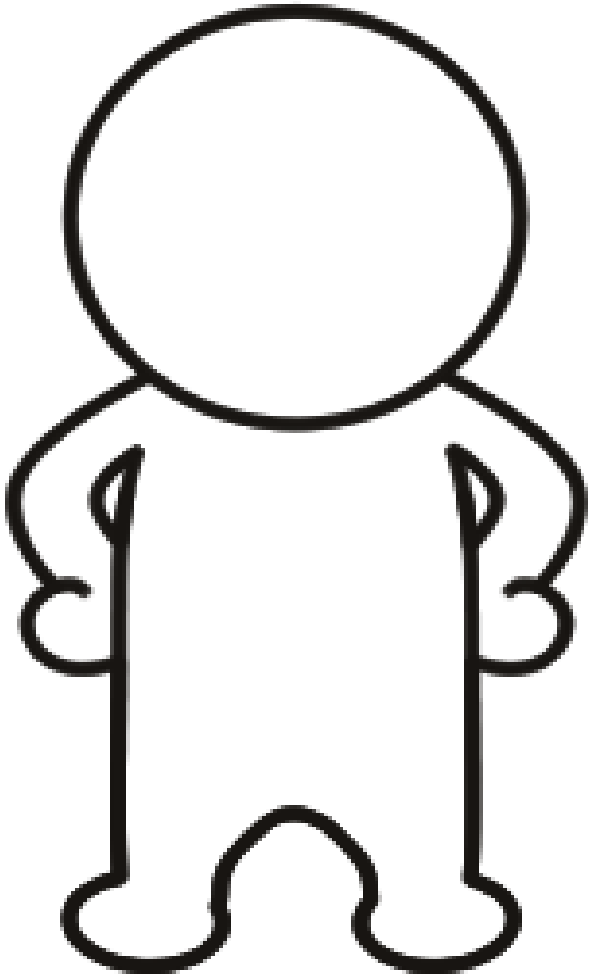
ゆっくり

校内活動

教科の授業
日本語の授業
放課後補習
部活
文化祭
在留資格勉強会
先輩の話を聞く会

校外活動

イベントへの参加
ボランティア
進路相談会参加
地域の学習教室



学習する

教科・日本語・キャリアに向けた学び
読書（母語・日本語）

多様な人と出会う

他校の生徒・先輩大学生・日本人大学生・先輩社会人・母語通訳者・コーディネーター・専門学校や大学職員・大学の先生・弁護士

体験する・知る・考える

知らなかった世界・情報を知る
手伝ってくれる人がいることを知る
自分が置かれている状況を把握する
相談できる人の存在を知る・再認識する

高校内で単発的、部分的に、教科や日本語のクラスでしてきていること／日本語教育でしてきていること。

実践や情報の見える化。風通しよく協力しあえる環境。
個々の教師だけが頑張るのではなく、全体としてのよい実践。

生徒個々の成長に寄り添い、本人が自律的に、表現内容と表現形式の両方に注目する力を獲得できるよう、全人的力を伸ばすキャリア教育としての表現教育の可能性、その具体的内容。

教科教育と日本語教育との協働が必要。「日本語ができるようになってから教科の勉強」ではない体制作り。